茨城県立図書館ボランティア会通信紙

かがやき

No.33(2016.12.4 刊行)、広報委員会編集、
県立図書館発行

通信紙はいかにあるべきか？

広報委員会

はじめに

新たに発足した広報委員会は、通信紙が発行されてから 12 年経た 2015 年 4 月、新たな編集方針を定めるため、通信紙バックナンバー(No.1-24)の記載内容を分析した。

その結果、12 年間にわたり蓄積された実績を基に、さらに、改善した方が好ましいと思われることがいくつか存在することに気づいた。

通信紙は、ボランティア会会員だけが閲覧しているわけではなく、茨城県立図書館 HP の「茨城県立図書館ボランティア」欄をとおし、世界中で閲覧できるようになっている。

そのため、記載内容は、茨城県立図書館ボランティア特有の問題のみならず、web 社会の現状と将来的発展まで考慮し、全国の図書館や社会でも参考となる一般的内容も含めることが好ましい。

広報委員会は、2015 年 4 月から 2016 年 11 月までの 2 年間弱、茨城県立図書館長と同ボランティア事務局担当者と話し合いつつ、通信紙の質的向上を図るため、試行錯誤をくり返してきた。

以下の 3 点はその過程で積み上げた新方針である。

編集上の留意点

茨城県立図書館ボランティア会会員(過去 12 年間の統計に拠れば、会員数 135-185 人、男女構成比 女性約 85%・男性約 15%)の年齢構成は、日本の年齢別人口構成分布に比較的近く、10-40 歳台約 25%、50-60 歳台約 50%、70-80 歳台約 25%となっており、少子高齢化傾向を強めている(事務局から入手したデータを基に広報委員会分析)。

そのため、通信紙の記載内容は、50-60 歳台を中心に、10-40 歳台と 70-80 歳台まで包括し、可能な限り、ボランティア全員が関心を持つ話題にすることが好ましい。

広報委員会の年齢構成は、理想的な編集方針を維持できるように、委員の再公募をとおし、20、30、40、50、60、70 歳台各 1 名とし、委員長には、ボランティア年齢構成分布の一番多い世代の時代感覚を反映させるため 50 歳台としたい。

さらに、編集過程においては、全委員の意見を公正に尊重し、メールのやり取りをとおし、世代別の社会認識に対するずれが生じないように注意する。

通信紙バックナンバー(No.1-24)の記載内容は、毎年、図書館とボランティアにかかわる発生現象を追跡するだけの同様なことがくり返されており、茨城県立図書館 HP の記載内容との棲み分けができていないように思える。

情報の即時性という評価指標では、HP に及ばないため、年間 2 回の発行回数でも、HP 並みかそれ以上の役割を担うためには、HP にない特徴を有していなければならない。

そのため、通信紙が備えるべき会員間の意思疎通を最優先すれば、キーワード「図書館」「ボランティア」「グループ別成果報告」「提案」「エッセー」「連載」をテーマとした記事が好ましい。毎号、それらをバランス良く配置した記事構成を目指したい。

質的向上

通信紙バックナンバー(No.1-24)の分析から、通信紙の質が読み取れる。そのため、No.25-27 において、試行錯誤した結果、ボランティア会会員の平均的問題意識と web 社会のレベルを考慮し、No.27 において、世間並みのレベルである 50 点かそれ

以上に設定した。No.30-31 では 70 点レベルにしてある。今後、ボランティア会会員からの投稿原稿を中心に据え、世間並みかそれ以上のレベルを維持したい。

総合目標

web は、世界的に、1995 年から普及し始め、現在、スマートフォンか PC で、アクセスできるようになっており、各家庭に普及していると言っても過言ではない状況にある。

web では、たとえ何も知らなくても、スマートフォンや PC の検索エンジンを利用し、いくつかの簡単なタッチ操作をとおし、短時間で、目的とする HP を初め、各種ファイルが、容易に、閲覧できるようになっている。

web を飛び交うメールや掲載ファイルの 99%は、信頼性の低い妨害目的であることが判明しており、それらを削除するに要する労働換算費用は、日本だけでも、年間 8000 億円にも達している。しかし、いまの web 社会では、セキュリティレベルを上げ、たとえ信頼性の低い情報が飛び交っていたとしても、即時性を最優先している。

web という土俵では、すべてが同等の権利と責任を有し、一切の甘えは許されず、個々の参加者が相撲道に精進して、良い相撲を見せるしかない。それができなければ土俵に上がらないことである。

web の掲載内容をレベル分けして分類すれば、A+、A、B、C となり、通信紙 No.1-24 までは、C レベルに甘んじてきたが、試行錯誤後の No.27 からは、A クラスに達していると思う。今後とも、改善を重ね、将来的には、オリジナリティの高い記事を満載し、A+を実現したい。

編集後記

過去半世紀、社会は、印刷・コピー書類中心主義から、コンピュータ普及にともない、さらに、過去四半世紀の web(特に電子メール)の普及にともない、電子媒体中心主義となり、印刷資料に依存しないペーパーレス化のオフィス革命が進められ、オフィス内の光景がまったく様変わりしています。書籍も電子書籍化の傾向にあります。

茨城県立図書館ボランティア会会員の 10-50 歳台では、web・電子メール・SNS の利用は、常識的であり、60 歳台では、すべてではないにしろ、ほとんどが、web・電子メールは、毎日のように、利用しており、70 歳台以上では、利用頻度は、低いものの、70%が web・電子メール利用でき、30%ができていません(以上の情報は広報委員会の原稿依頼の結果の統計)。

県立図書館ボランティア会会員の年齢分布は、10-80 歳台と広範囲にわたるため、すべての年齢層をカバーした判断はできませんが、最も人数の多い平均的な 50-60 歳台では、電子媒体中心主義に移行できており、60 歳台の専門知識を有する者は、電子媒体化の方向で、70 歳台以上は、電子媒体化に乗り遅れ、印刷資料に依存しています。

電子媒体中心主義とは、あくまでも、中心、すなわち、大部分が、電子媒体化になっており、印刷資料ゼロというわけではなく、割合が少なくなっていて、時代とともに、その割合が少なくなっているという意味です。

私のノート型 PC(OS は WINDOW'S 7 や 8 や 10)には、過去 10 年間、プリンターが設置されていません。ペーパーレス化 100%です。それでも、多くの作業を処理できています。

たとえば、過去 6 年間弱(3.11 以降)にしたことは、次のとおりです。

・国内外に年間約 1000 件のメール発信(6 年間約 6000 件)。

・新聞社・出版社から 6 年間に約 70 件の特集原稿依頼があり、WORD A4 標準書式でまとめ、そのまま、電子メール添付ファイルとして送信(著者校正も新聞社・出版社から逆工程で実施)。

・6 年間に、26 冊の著書執筆依頼があり、そのうち 16 冊が出版済みです。1 冊の著書原稿も、WORD A4 標準書式で 120 枚にまとめ、そのまま、電子メール添付ファイルとして送信しています。

プリンターを設置してなくても、何の支障もありませんので、今後も、いまのままです。

仕事のできない人ほど、印刷資料を山のように集めますが、そのような人達は、情報化時代、特に、web・電子メールなどの電子システム利用の的確な利用法を理解できていません。

情報化時代・電子媒体中心主義では、重要な情報のみ電子媒体に記憶させ、大部分の参考程度で済む情報は、思い切って消去してゆくことです。情報化時代とは、情報を集めることではなく、逆に、不必要な情報を消去し、本質的情報のみ抽出できる能力を養うことです。

桜井 淳